

わらびの会

アニュアルレポート

2024（令和6）年



すべてのこどもたちに 適切で心ある医療を

認定NPO法人 こども医療支援わらびの会



歩んできた道のその先を創造しよう。

令和6年、理事も新体制となり
これから新しい一歩を踏み出すにあたり
今年のテーマを決めました。

これまでのわらびの会の歴史と想いを
さらに発展できるよう今年は変化の年と捉え、
今後10年、20年と
わらびの会が病児やその家族を支えていけるよう、
新しい目標をたて進化をしてまいります。

理事長 勝連 聖史

わらびの会 役員

(令和6年6月現在)

顧問 安次嶺 馨 顧問 赤嶺 真也

監事 下地 寛一 監事 具志 一男

副理事長 儀間 小夜子
(心臓病の子どもを守る会)

副理事長 真栄城 守信
(聴覚障害児を持つ親の会)

理事 真栄田 篤彦
(西町クリニック)

理事 宮城 雅也
(小児在宅医療基金「ていんさぐの会」)

理事 玉城 よし子
(心臓病の子どもを守る会)

理事 城間 米子
(沖縄訪問教育親の会)

理事 宮島 京子
(沖縄肢体不自由児者父母の会連合会)

理事 名幸 啓子
(バクバクの会 沖縄支部)

理事 金城 敦子
(がんの子どもを守る会)

理事 野原 朝哉
(聴覚障害児を持つ親の会)

理事 金城 清美
(心臓病の子どもを守る会)

理事 安室 由美子
(中部ダウン症親の会「スマイルアップ」)

理事 玉那霸 仰
(おきなわ重度障がいを持つ方と家族の生活を考える会)

わらびの会とは



こどもたちが安心して
十分な医療を受けられる
よう、病気や障がいのある
子どもと家族の支援に関する
事業を行い、こどもの
健全な育成と医療福祉
向上に寄与することを目的
として活動しています。

こども医療支援のための活動内容

**ファミリーハウス
「がじゅまるの家」受託運営事業**
離島や遠方に住む
病気や障がいのある子ども
と家族のための滞在施設
「がじゅまるの家」受託運営

**病院
ボランティア養成**
養成講座開講および
ボランティア活動の支援

ピアサポート活動他
・ピアサポート
・ピアサポートセミナー
・合同クリスマス会
・勉強会等開催

広報活動
・わらびの会より、
がじゅまるの家より発行
・ホームページ公開
・マスコミ等を通じての
情報発信
・イベントの開催や参加

わらびの会 構成団体

**(一社)
全国心臓病の
子どもを守る会
沖縄県支部**

**沖縄県
聴覚障害児を
持つ親の会**

**沖縄県
肢体不自由児者
父母の会 連合会**

**沖縄県
自閉症協会**

**(公財)
がんの子どもを
守る会 沖縄支部
「のぞみ財団」**

**沖縄
訪問教育
親の会**

**(公社)
日本てんかん協会
沖縄県支部
「波の会」**

**沖縄県
重症心身
障害児(者)
を守る会**

**梅っこクラブ
排尿・排便に
問題を抱える
子どもと親の会**

**沖縄
小児在宅医療基金
「ていんさぐの会」**

**人工呼吸器を
つけた子の
親の会
「バクバクの会」**

**バンビ
沖縄中部
療育医療センター
父母の会**

**北部地域
障がい児・者
親の会「綾」**

**ダウン症 親の会
「たんぽぽだん」**

**(公財)
日本ダウン症協会
専属相談窓口**

**沖縄LD児・者
親の会
「はばたき」**

**骨形成不全
症の会
「おきなわ
重度障がいを
持つ方と
家族の生活を
考える会」**

**NEW
おきなわ
重度障がいを
持つ方と
家族の生活を
考える会**

**NEW
沖縄県
中部地区
ダウン症親の会
「スマイルアップ」**

**NEW
宮古島に住む
障がい児と親の会
「あまいるの会」**

2024年6月現在、わらびの会の構成団体は北はやんばる地区から南は宮古島まで、沖縄県各地の親の会 20団体 から構成されています。

令和5年度には新たに3団体が仲間に加わりました。
各会の詳細は、わらびの会ホームページにて紹介しています。

令和5年度 事業報告

コロナ禍からの脱却。活動が再始動。

新執行部への期待

前理事長 真栄田篤彦

令和6年6月の当会の総会後に臨時理事会が開催され、そこで新理事長選挙を行い勝連聖史新理事長が誕生しました。当会の創設時から20年の長きにわたり理事長という重責を担ってきた私はやっと肩の荷をおろした安堵感で、ホッとしたのを感じていました。

さて、未曾有の社会混乱を起こしたコロナ禍の初期段階で、陽信会理事長の高良健先生、当時の那覇市副市長の知念覚さんと真栄田とで緊急協議を重ね、市民、県民を守るためにPCR（コロナウイルス診断検査）検査施設を開所することを決定しました。

私は沖縄臨床検査センター長に就任し、県行政や那覇保健所と連携してコロナ対応の日々がスタートしました。当会の受託事業である「がじゅまるの家」のコロナ対応においては、当時の宮城理事、儀間事務局長、真栄城さんご夫妻ならびにスタッフ一同で対応して頂き無事に今日まで経過しています。

ただコロナ禍に起因した社会的経済不況の中で、当会に対する寄付金も激減しており、種々の事業展開に大打撃を受けています。赤字決算を少しでも減らすべく私自身でコロナ禍の2年間で370万円（寄付も含め）補填してきました。そして、昨年からこの様な厳しい運営状況を打破するために運営委員会を設置し真栄城副理事長を中心に種々のビジネスモデルを鋭意検討しております。

約28年前に全国心臓病の子どもを守る会沖縄県支部の親川さん、儀間さん、田頭さん玉城さん方が中心になって、沖縄母子総合医療センター設立推進協議会で集めた約20万署名を元沖縄県知事稻嶺恵一（私の患者）様に要請し、那覇南部基幹県病構想と相まって、子ども病院開設が決定したことや、同病院の呼称に関して元副知事の嘉数昇明（私の友人の兄）氏からこども医療センターを残して頂いたことに深く感銘しました。

振り返って、がじゅまるの家建設に当たっては、当時沖縄電力副会長の石嶺伝一郎さん（私の友人）から建築費用ご負担の了解を得た事。運営費資金調達に関しては、当時私が沖縄県医師会の理事として、東京出張の際には公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの事務局長・長瀬淑子様へ5年間も資金援助要請を続け、やっと年間運営費1000万円確保出来たのに、当会関係者から猛烈な反対を受けて5年間の時間と労力が無駄になった事。その為に元副知事の仲里全輝（私の患者）氏の取り計らいで、沖縄保健医療福祉事業団より当会が受託運営できるようにしていただいた事など、多くの行政・企業のご指導ご協力を受け今日迄発展することができました。20年経過しても関係各位への心から感謝をしております。有り難うございました。

今後の当会が新理事長の元、これまで以上に発展継続していただけるものと確信しております。

NPOの認定を無事に更新



平成31年（令和元）年度から令和5年度までのわらびの会のすべての活動に対し、沖縄県の実態調査を受けると共に、認定更新申請のために規定の書類を沖縄県に提出しました。

おかげさまで、非常に良い内容で運営を実施しているとの評価をいただき令和6年3月22日付けで、無事にNPOの認定を更新することができました。

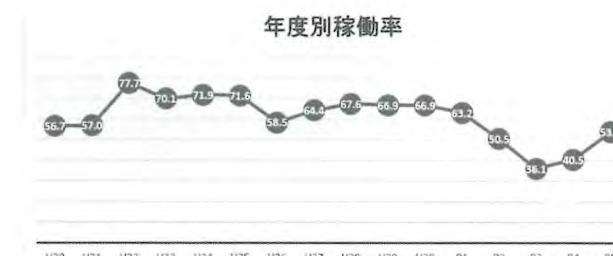
今回、更新した認定の有効期間は令和6年度から令和11年度となります。

これからも、こども医療支援のために公正かつ適切なNPO運営に精進いたします。引き続き皆さまの温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

がじゅまるの家 受託運営



ファミリーハウス「がじゅまるの家」は、コロナウイルス感染症の5類移行後、徐々に利用者数が増加し、コロナ以前の稼働率に近づきました。



令和5年度も団体・個人それぞれ多くの方から食品の寄贈や寄付金、こども達へのプレゼント等さまざまご支援をいただき、活動の励みとなっております。心より感謝申し上げます。詳細な内容は、今後発行の「がじゅまるの家だより」の第31号をご参照ください。



令和5年度 事業報告



病院ボランティア事業

令和5年度は、沖縄社会福祉振興基金助成事業より補助をいただき年2回の「こども支援ボランティア養成講座」及び県外から坂上和子先生をお招きして4年ぶりの「病院ボランティア勉強会」を開催しました。

病院ボランティア養成講座（第32期・第33期）では28名の方が受講、その後実習を経てこども医療センターでの活動に参加なさっています。

久々の開催となった病院ボランティア勉強会では、坂上先生との再会を喜ぶ声があちらこちらから聞こえ、ちょっとした同窓会のよう。そして、ご講義ではこども病院でのボランティア活動の意義や継続することの大切さを再確認する素晴らしい機会となりました。



ピアサポート事業

沖縄県小児慢性特定疾病児自立支援のピアカウンセリング業務は今年度で7年目。毎月5日間のこども病院でのピアサポ活動に加え、わらびの会の構成団体でも傾聴を中心としたピアサポート活動が行われました。また、定期的にピアサポートゆんたく会を開き、情報交換やピア同士のセルフピアの機会も設けました。

令和5年度はピアサポートセミナーの他、藤村真弓先生・山城寿美江先生をお招きしてピアサポート勉強会を開催、きょうだい支援や子どもの言語発達の重要性を学びました。

3月末には難病のこども支援全国ネットワークさんに全面的なご協力を得て県外のピアサポート活動の現場を視察することができ、令和6年度の活動に向けて多くの示唆を得ました。



広報活動

令和5年度もさまざまな媒体に活動を掲載していただきました。

<沖縄県保険医療福祉事業団>

- kenko ISLAND

<JAおきなわ>

- あじまぁ 各号

<琉球新報>

- 「がじゅまるの家」で秋まつり
南風原/来月3日、4年ぶり開催（2023/10/17）
- 「がじゅまるの家」に遊具
アイアム社寄贈（2023/11/02）
- 施設見学兼ね秋祭り
南風原町の「がじゅまるの家」（2023/11/09）
- 総合格闘技UFCファイター・平良達郎選手が
食料品など寄贈
病児家族支援「がじゅまるの家」に
沖縄（2024/02/29）



<沖縄タイムス>

- 「がじゅまるの家」に物品寄贈
JAおきなわ（2023/8/4）
- 「がじゅまるの家」見学会 南風原 来月3日秋祭り（2023/10/31）
- 難病の子におもちゃ贈る 県内支援施設へ「遊びに夢中に」願う
国頭で東京の美術館と日本財団（2023/12/19）

<タイムス住宅新聞 創立40周年特別号>

- 病児と家族が滞在できる施設 ファミリーハウスがじゅまるの家（2023/4/1）

その他、わらびの会 構成団体もそれぞれ活発に活動を展開し、県内各紙にて記事として取り上げていただきました。



賛助会員への入会と ご寄付のお願い

認定NPO法人 こども医療支援わらびの会は、病院ボランティアの養成と活動の支援、遠方からの病気や障がいのあるこどもとその家族のための滞在施設 ファミリーハウス「がじゅまるの家」の受託運営やピアサポート事業等を通して、こども医療への支援を行っています。

これらの活動経費は、主に当会の趣旨にご賛同いただいた方々からの会費とご寄付により賄われております。

今後も、病気や障がいのあるこどもとその家族への支援活動が継続できるよう、皆さまからのあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。

賛助会員

当会の会誌、活動報告書等をお送りします

◆個人会員：1□ 5,000円/年

◆団体会員：1□ 10,000円/年

ご寄付振込先

振込取扱票をご利用ください

わらびの会へご連絡いただければお送りいたします

郵便振替

口座番号：01720-5-84825

加入者名：特非 こども医療支援 わらびの会

※通信欄に、ご支援の内容（「賛助会費」または「寄付」をご明記ください

認定NPO法人 こども医療支援わらびの会



〒901-1105

沖縄県南風原町字新川272-16
ファミリーハウス「がじゅまるの家」内

HP: <https://www.warabinokai.org/>
E-mail : info@warabinokai.org
TEL&FAX : 098-888-6605

編集後記

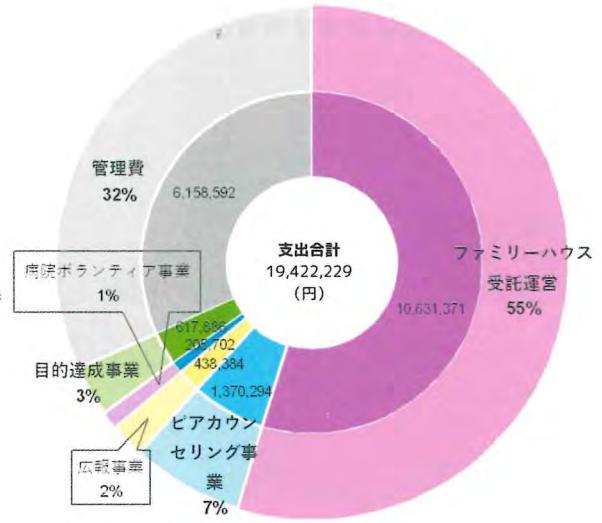
今回、わらびの会だよりをカラー版の「アニュアルレポート」として紙面をリニューアルいたしました。

令和7年度（2025年8月）には設立20周年を迎える、わらびの会。

「温故知新」をモットーに、しっかりとしたこれまでの歴史の土台を礎にこども医療支援をさらに充実・発展させていきたいと、思いを新たにしています。

令和5年度 決算報告

令和5年度は当初の収入見込みより寄付収入が少なかった事が目立ちました。会員拡大のための広報の充実と、既存の会員の皆さまからの会費納入・寄附金振込等の利便性を高め、分かりやすく振込みしやすい環境の整備が求められていると考えられます。



令和5年度 貸借対照表

令和6年3月31日 現在

科目	金額 (円)
I 資産の部	
1. 流動資産	112,868,285
2. 固定資産	756,205
資産合計	113,624,490
II 負債の部	
1. 流動負債	1,881,246
負債合計	1,881,246
III 正味財産の部	
正味財産合計	111,743,244
負債及び正味財産合計	113,624,490

令和5年度 活動計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

科目	金額 (円)
I 経常収益	
1. 受取会費	635,000
2. 受取寄付金	2,575,423
3. 受取助成金等	1,837,821
4. 事業収益	9,380,640
5. その他収益	69,742
経常収益計	14,498,626
II 経常費用	
1. 事業費	13,263,362
(うち人件費)	8,756,340
2. 管理費	6,158,592
(うち人件費)	4,457,919
経常費用計	19,422,229
当期経常増減額	△4,923,328
当期正味財産増減額	△4,923,328



沖縄県保健医療福祉事業団より
わらびの会が委託を受けて運営している
ファミリーハウス「がじゅまるの家」は、
離島や遠方に住む病気や障がいのあるこどもと
その家族のための滞在施設です。

ご利用に関する諸手続きや環境整備の他、
ピアサポート含め、多面的に
病児・障がい児とそのご家族を支えています。